



一宮町長
馬淵 昌也

私は、町長就任以前は大学教員で、中国の儒教や仏教などについて研究していました。昨年末、しばらくぶりに儒教に関する研究論文を執筆しました。町長就任以降、就寝前に少しずつ読み進めていた本からの情報が一定程度集まったので、論文にまとめました。二本執筆しましたが、いずれも今年中に学術専門誌上に公開される予定です。

執筆作業の中で、世の中の変化というものを大きく感じました。それは、ネットの情報網の発達です。以前私が大学にいた頃は、大学や研究機関に所属していなければ、研究に必要な専門資料を目にする機会がませんでした。関連の諸資料は大学や研究所の図書館に所蔵されており、そうした機関に所属する人だけが利用でき、そうでない人は全く接することができなかったのです。

ところが、今は違います。世界中の各国で、歴史資料はもちろん、研究書や研究論文もオンラインで閲覧できるようになっています。ものによっては無料で、有料でも比較的安く手に入りま

す。そしてそれは、データで存在するので、所蔵に場所も取らず、どこでも利用できます。

たとえば、大正年間に日本で編纂された仏教の大蔵経は、全100巻で、以前は大変高価なものでした。しかし、今では誰でも無料で、いつでもどこでも読めるのです。

つまり、現在は、大学や研究所に所属しなくても、全くの素人でも、本格的に研究の作法さえ心得れば、自分の家においても、一級の研究が進められる環境が整いつつある、ということですね。今回、私も、全く町から出ないで論文を完成させました。

もちろん研究作法は必要です。学術研究では、客観性や確実性を備えたいので、議論を立てることは許されません。現在ネット上に氾濫しているような、「こうだったら面白いな」とか、「こうだったらいいな」的な推定は、認められません。従って、そこには一定の専門性を持った先達からの教導が必要になるでしょう。

とにかくすごい時代になりました。こういう時代であればこそ、本当に有効な知のあり方とはどういうものなのか、各人が自問しながら、この恵まれた環境を利用してゆくことが必要だと、痛感した次第です。